

第三回 古典の日

～古典をいただき、古典に抱かれ

11月1日は「古典の日」～

今回のテーマは

山車・からくり



古典の日とは・・・

世界最古の長編小説「源氏物語」の筆者・紫式部の日記『紫式部日記』
に、「源氏物語」の登場人物である「若紫」について、記された日が11月1日
であったことから、この日を記念して11月1日は「古典の日」と定められました。

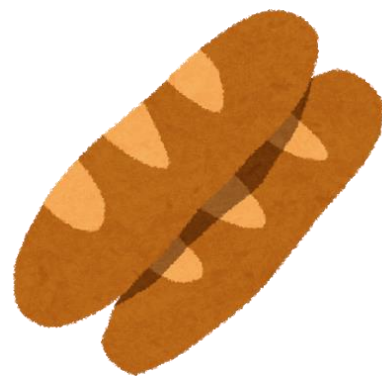
山車の歴史



山車とは、その名前のおり、「山」を意味する祭りの出し物です。その歴史は古く、日本で山や岩が神として祭られていたころからだといわれています。はじめは、「山」そのものを祀った神社でお祭りをしていましたが、人口が増え、山が遠い平野に住むようになった時に「山車」を代わりにしたと考えられています。全国に、山車はたくさんありますが、名前もたくさんあります。”やま”、”ひきやま”、”だんじり”、”おくるま”……。屋台と呼ばれる山車もあるそうですよ。

からくりの歴史

からくりの歴史は、山車に比べると浅く、戦国時代に種子島で鉄砲と一緒に伝えられた西洋時計が発展したとされています。(パンもこの時伝わったそうです。)江戸時代(寛永頃)に、竹田近江率いる竹田一座が、大阪でからくりショーを行ったのを契機に、からくりは大ブームとなり、狂言や歌舞伎と共に日本を代表する文化の一つとなっていきました。



古典の日オススメ本リスト



東芝の祖からくり儀右衛門

現代書館 289.1/タヒ

「日本の発明王」といわれた田中久重の伝記です。日本の大企業”東芝”の創始者でもあるので、そちらで知っている人も多いかも知れません。

和時計の最高傑作とされる「万年時計」や「弓曳き童子」など様々なからくりを考案、作成しました。

日本の神輿と祭りハンドブック

新光社 386.1/ミ

神輿について、その歴史や神輿の中身について、わかりやすく説明しています。また、日本中の大きな山車や曳山が登場する祭りについても解説があり、祭りの写真を見るときにいつもと変わった視点で見られると思います。英訳がついているので海外の人に説明するときも便利です。

完訳 からくり図彙 並木書房

502.1/ホ

からくりの歴史と詳細な図が多数掲載されています。「からくり図彙」は、江戸時代に発行されたからくり人形の図解書で、国際的にも高い評価を受けました。その本を現代用に訳した本です。日本が現在ロボット先進国といわれる国になった原点です！

ロボットが好きな人は一度見てみてください。

世界無形文化遺産データ・ブック

2016年版

シンクタンクせとうち総合研究機構 386.8/フ

和食が無形文化遺産に登録され、全国でもニュースになりました。この本は、無形文化遺産についての仕組みと世界中にある遺産を地域別にわかりやすく説明しています。

日本各地にあるからくり博物館



・石川県金沢港大野からくり記念館(石川県金沢市)

伝統的な日本のからくりを展示しています。金沢とからくりは馴染みが深く、茶運び人形などの可愛らしいからくりが多数展示されています。

・江戸東京博物館(東京都墨田区)

江戸から現代までの時代の変遷を、人形や写真、模型などを使ってわかりやすく説明しています。また、舞台や寄席(よせ)なども定期的に行っており、見るだけでなく、体験できるコーナーも多数あります。

・国立科学博物館(東京都台東区上野)

国立博物館には、和時計の最高傑作といわれる田中久重作”万年自鳴鐘”が展示されています。お立ち寄りのさいには、ぜひご覧ください。

・伊豆高原からくり時計博物館(静岡県伊東市)

国内外かかわらず、世界中のからくり時計を集め、展示している博物館です。ふくろう時計やミステリー時計など様々な時計が展示されています。

・犬山市文化資料館別館 からくり展示館(愛知県犬山市)

犬山にある博物館で、からくり人形の博物館としては、かなりの量が展示してあります。からくりに興味がある方は、一度足を運んでみてください。からくりだけでなく、山車についても展示があります。